

## 第 69 回(H25 年度第 5 回)MT 委員会議事録

日時: 2013 年 9 月 13 日 13:30–15:20

場所: RIBF 棟 2F 小会議室

出席: 酒井<sup>a</sup>(委員長)、延與<sup>a,†</sup>、福西<sup>a</sup>、羽場<sup>a,†</sup>、上垣外<sup>a</sup>、加瀬<sup>a</sup>、久保<sup>a</sup>、吉田光<sup>a</sup>、吉田敦<sup>a,†</sup>、  
森本<sup>a</sup>、下浦<sup>b</sup>、宮武<sup>c,†</sup>、若杉<sup>a</sup>、上叢<sup>a</sup>、本林<sup>a,†</sup>、矢向<sup>d,†</sup>、西村<sup>a,††</sup>、青井<sup>d,††</sup>、  
平山<sup>c,†</sup>、岸本<sup>a,†</sup>、西村<sup>a,†</sup>、米田<sup>a</sup>

欠席: 阿部<sup>a</sup>、上野<sup>a</sup>、奥野<sup>a</sup>、上坂<sup>a</sup>、櫻井<sup>a</sup>、山口<sup>b</sup>、森田<sup>a</sup>

<sup>a</sup>RNC / <sup>b</sup>CNS / <sup>c</sup>KEK / <sup>d</sup>RIBF-UEC / <sup>†</sup>Observer / <sup>††</sup>TV Attendee

(順不同・敬称略。以下同様)

### 【報告】

#### 1. MT スケジュールの変更 (米田)

RRC コイル入れ替え工事後に十分な時間をとるため、9 月 18 日に予定していた生物照射 MT を 19 日に変更したことが報告された。変更の内容は以下の通り。

阿部 MT 9/18 9:00 – 16:00 → 9/19 9:00 – 16:00

常泉 MT 9/18 16:00 – 17:30 → 9/19 16:00 – 17:30

泉 MT 9/18 17:30 – 19:00 → 9/19 17:30 – 19:00

#### 2. RRC 加速試験報告 (福西)

7 月中旬より 2 ヶ月にわたって行われた RRC のコイル入れ替え工事後、加速試験を行ったことが報告された。イオン源の試験で出していた <sup>40</sup>Ca をそのまま使用し、加速周波数 38.2MHz、ハーモニクス 9 で加速エネルギー 50 MeV/u の条件で、9 月 11 日午後から 13 日午前 4 時頃まで行った。通過効率、ターンパターンなど測定し、次からの MT 進行に支障がないことが確認された。また、2 月の電源工事後にも加速試験を行う可能性があること、<sup>238</sup>U の加速試験を行う可能性があることもあわせてアナウンスされた。

#### 3. PAC 進捗状況(米田)

PAC の進捗について以下の報告があった。

・ 13th NP-PAC (12/13-14 開催):

9 月 13 日に Call for Proposals リリース、10 月 28 日 proposal 提出締め切りのスケジュールで進める。

・ 10th ML-PAC: 次回は未定。

・ 4th In-PAC: 特になし。

## 【議題】

### 1. 前回議事録承認(酒井)

### 2. 下期 MT スケジュール案(酒井)

共用促進チームより、2013年度下期(2013年10月15日から2014年3月14日まで)のMT計画の最終案が提示され(米田)、承認された。複数の工事予定(10月14日から11月11日まで防水工事でAVF利用不可、12月16日から3月8日までRILAC機器更新のため使用不可、12月16日から1月31日まで電源更新工事のためRRC使用不可)でスケジュールに制約が多い中、ほとんどのMT要求に割り当てを行うことができた。RILAC単独実験課題のうちPACでB採択であったもの1件にも、希望時期に他に要求がなかったためMTを割り当てた。3月15日以降は、RIBF新施設の実験を割り当てる可能性を考慮して次期(12月~1月)に割り当てを行うこととした。

### 3. FY2013年間運転費概要(岸本)

加速器研究推進室より、今年度の運転費の概要について説明があった。予算減、光熱費高騰などで運転費確保が困難な中、理事長裁量経費の追加措置により、4-6月のRIBF新施設MTに加えて来年3月後半もRIBF新施設の実験を行うことができる見通しであることが報告された。来年度の予算状況の見通しについて質問があり、概算要求ベースで予算増を獲得するべく予算要求を行っていること、施設整備費補助金の獲得を目指していることなどが説明された。

### 4. NP-PACでの古い課題の再審査について(酒井)

共用促進・産業連携部より、2009年以前にPACで承認された課題について、現在のscientific merit、ビーム強度を含むexperimental feasibilityで課題を再審査するため、updated proposalの提出を求めることが提案され、承認された。該当する課題は15件80.8日分。updateしたproposalが採択された場合、新規課題でなく以前からMT配分を待っている課題として取り扱うことが確認された。UECより、Call for Proposalsで採択課題の有効期限を2年としているのは現実的でないとの指摘があり、検討の結果4年と記載することとなった。

### 5. NP-PAC Call for Proposalsに記載する加速ビーム核種の仮計画(米田)

第13回NP-PACのCall for Proposalsに記載するビーム核種の2年仮計画については、以下のように記載することとなった。

Fiscal Year 2014:  $^{238}\text{U}$ , Light ions, ( $^{48}\text{Ca}$ ,  $^{70}\text{Zn}$ ,  $^{78}\text{Kr}$ )

Fiscal Year 2015: ( $^{238}\text{U}$ , Light ions,  $^{48}\text{Ca}$ ,  $^{70}\text{Zn}$ ,  $^{78}\text{Kr}$ ,  $^{124}\text{Xe}$ )

### 6. 産業連携共同研究実験の実施について(吉田敦)

産業連携チームより、RIビームを用いた金属部品の摩耗検査法の開発について、企業との共同研究を行いたい旨要求があり、了承された。これまで2度トライアルでビーム利用してきたが、これからは共同研究として開発を進めていく。

## 7. Detector Development Beam Time 審査

検出器開発チーム(佐藤優)より、ダイヤモンド検出器の試験を Detector Development Beam Time として行いたい旨申請があった。ダイヤモンド検出器は高速応答で時間測定に有効であり、大面積化が試みられている。この試験では、面積4 mm × 4 mm、65 μ m 厚の単結晶 CVD ダイヤモンドより製作した検出器について、時間応答、位置依存性、ビーム耐久性を調べる。ビームは  ${}^7\text{Li}$  で強度は 0.01 p n A 程度、1.5 日間測定を行う。CNS でもダイヤモンド検出器の開発が行われており、共同研究を行うことを条件に承認された。

## 8. 次回以降 MT 委員会の日程

- 次回 MT 委員会は 10/25 (第 4 金曜) 13:30 - で調整。
- 次々回 MT 委員会は 11/22 (第 4 金曜) 13:30 - で調整
- 2 月は 14 日 (第 2 金曜) に変更する。3 月も 14 日から変更の予定。

(以上)